



双翼枝

SOUYOKUSHI

ある時、

バクテリアが、プランクトンが、

虫が、ウイルスが、

月の去った惑星で、汐を失くした惑星で、

蜥蜴が、

鮫が、蛙が、

鳩が、獅子が、

発芽した。

朽ちることを亡くした世界は

堆く宙へと積み上がり

いきものから芽吹いた緑は、絡まり、同化し、大樹を成す

僕の知るすべては森となった

翼持ち、か

僕に声をかけてきたその男は、樹の根に埋もれて喘いでいた。

羨ましいな

抜いても折っても生えてくる
骨に根を這わせて枯れやしない
肉そのものが植木鉢みたいなものさ

最後の人類になれる

水と光と大気で生き
樹木の時間を空費して
傷口から樹液が滴るモノを
ヒトと呼べるのならね

だが、
芽吹いている

飛躍とは昇華だ
昇華とは同化だ

おまえは円環に弾かれた
完全なるものに同化できなかった

欠落は渴きを、渴きは餓えを、
餓えは充足を、充足は飛躍を！

あんた
嘲ることで
何を讚美している？



は

ぱきり、と、双葉が男の指の腹を割った。

男という種は発芽した。

男の肉は樹幹と化し、軋み、木片を撒き散らし、葉を茂らせ、
宙へ宙へと伸びてゆく。

やがて、凭れていた樹木に、男は融けた。

叡智の種でも嚙下すれば、仲間にしてやるとでもいいたいのか

森とは究極の調和であるという。

あいにく
僕はそんなもの
欲しくなどないんだ

by

SAKIHA HAENO

片足靴屋/Sheagh sidhe

HP <http://id12.fm-p.jp/20/LIR/>

Twitter @SAKIHA HAENO

双翼枝

SOUYOKUSHI

双翼枝

<http://p.booklog.jp/book/76284>

著者：片足靴屋/Sheagh sidhe

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/leithbhrogan/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/76284>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/76284>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ